

(能)

### 小

#### 督

トモ 中村 清  
小督 松田 若子  
シテ 藪 俊彦

大鼓 飯嶋六之佐  
小鼓 多田 順子

笛 江野 泉

間若生 敏郎

後見 佐野 弘宜  
福岡 聡子

地謡

米島 和秋 川島 英治  
谷 清士 渡邊荀之助  
長野 裕 高橋 憲正  
大澤 永靖 松本 博

休憩 二十分

### 三 輪

(連吟)

水口 純治  
笠間 啓  
酒井 章  
高野 秀幸

(狂言)

### 蚊 相 撲

大名炭 光太郎

太郎冠者 炭 哲男  
蚊の精 中尾 史生

後見 山田 讓二

(能)

### 昭

#### 君

子方 福岡甚三郎  
ツレ 渡邊 茂人  
シテ 高橋 右任

大鼓 原岡 一之  
小鼓 住駒 俊介

太鼓 麦谷 曉夫  
笛 室石 和夫

間能村 祐丞

後見 佐野 由於  
高橋 憲正

地謡

寺田 茂 佐野 玄宜  
船本 嘉人 広島 克栄  
山崎 健 島村 明宏  
田屋 邦夫 藪 克徳

## 能小督 (こごう)

高倉院に仕える臣下(ワキ)が弾正大弼源仲国(前シテ)の私邸へ急ぎます。帝寵愛の小督の局が嵯峨野にあることを知り、仲国に尋ねさせる宣旨を携えています。小督は中宮の父平清盛の意向を憚り密かに宮中を去りました。それが嵯峨野の片折戸をした住まいに隠れるというので、その目印と琴の音を頼りに仲国は拝領の馬を駆って探索に出掛けます(中入)。八月十五夜の月光を浴びて法輪寺近くまで来た仲国(後シテ)の耳に、松吹く風に紛れて「想夫恋」の琴の音が聞こえてきます。弾き手を小督と確信した仲国は片折戸を隔てて来意を告げ、庵内へ通されて帝の御書を手渡します。帝恩の忝なさと、にもかかわらず暗い行く末の予感に小督(ツレ)はしばし涙し、仲国はそれを慰め名残を惜しんで舞を舞います。こうして仲国は勅命を果たし喜んで帰洛しますが、このあと平家物語では小督の復帰が清盛の怒りに触れ、小督は出家・追放を強いられたとされます。

## 狂言 蚊相撲 (かずもう)

江州守山は蚊の名所とか。人ほどもある蚊の精が血を吸いに都に出る街道で、新参者を探す太郎冠者に行き会って、召し抱えてくれるという大名の館へ伴われます。得意の芸は相撲と答えて、大名と手合わせしますが、刺されて目を回した大名は、生国を確かめて蚊の精と気づき、もう一番相撲を取ることにします。今度は大団扇であおいで蚊の精をよろけさせ、喜ぶすきに小股をすくわれてまた敗れ、腹いせに行司の太郎冠者を打ち倒します。

## 能 昭君 (しょうくん)

唐土こうほの里に住む者(ワキ)が出て、近所に住む白桃・王母夫婦には昭君という娘がいて、帝に召された美人ながら事情があり胡国の夷に送られたことを述べ、両親を見舞いに行きます。老いた両親(前シテ・ツレ)は昭君が胡国に行く時この柳を植え置き、自分が死んだら柳も枯れると予言していたこと、そして絵師に賄賂を贈らず不美人に描かれた昭君が胡王に遣わされた経緯を語り、柳を鏡に映して昭君の面影を認めようとします(中入)。鏡には昭君の亡魂(子方)が姿を見せ、続いて鬼形の夷の大将(後シテ)も出現します。昭君の夫韓耶將の幽霊が、鏡を通して妻の両親に対面を望んだのですが、母(ツレ)が恐れる理由を鏡に映る自分の姿を見て納得し、面目ないと立ち去ります。一方、鏡に映る昭君の美しさは曇りなく、そういう清らかな人の心こそ、真実を映し出す鏡といえるでしょう。金春系の古い能で、本来は老父と韓耶將を別人が務めたと推定されています。

(金沢大学人間社会学域教授 西村 聡)

次月の予定 平成三十年十月七日(日) 午後一時始

(能) 六浦

(狂言) 狐塚

(能) 天鼓